

渡辺ハウジングOBの皆様と
未来のお客様にお届けする

やすらぎ通信

渡辺ハウジング
03-3959-8743



紅や黄色に染まった美しい樹木に、心を奪われている間に師走を迎えました。この文字を見ると、これからしなければならない

様々なことが頭をよぎり、強迫観念(?)に駆られます。お歳暮、大掃除、年賀状やおせちの用意・・・等新年を迎える準備が沢山あり、何から手を付けたらいいのか悩みます。

また、この時期は1年を振り返り、反省や後悔することも多々。

でも、周囲の方々に支えられ無事に仕事ができ、健康で過ごせたことは、何よりも嬉しいことだと感謝しています。



皆さんにとって、今年はどうな1年でしたか?
「とっても幸せだった!!」ら、私も幸せです。



何かとお忙しいことと思いますが、お身体をくれぐれも大切にお過ごしくださいね。

今月も大切な家づくりをご一緒している方の紹介をさせていただきます。

今回は、大工の古藤さんです。

家づくりの際、最も身近かに感じられるのはやはり大工さんですね。ですから、信頼してお任せしたいと思うのも当然です。

そんな期待に応えてくれる強い味方登場!

古藤(ことう)さん。



外見は、細身でとても物静かに見えますが、内に秘めた家づくりへの思いは熱くて火傷しそう。モットーが「向上心」というのも頷けます。

古藤さんは、お米、牛肉やサクランボ、そしてラ・フランスなど美味しい名産品が沢山ある山形県のご出身。



山形県は、温泉やスキー場も充実しており特に蔵王の樹氷は冬の時期、人気があるようです。

古藤さんは、食べ物の好き嫌いはなく、何でもおいしく食べられるのが元気の源。それに加え、車が好きなので、休日は、ご家族と一緒にドライブを楽しむそうですが、仕事を離れて過ごす時間は気分転換をはかる貴重な時なのかもしれません。



これからも、皆さんに喜んでいただける家づくりを目指し、一緒に頑張りましょう。

ご協力の程、よろしくお願いたします。

年越しそば

大晦日に年越しそばを食べるようになったのは、江戸時代からで、その頃の商家では、忙しい晦日に手早く食べられるようにということでそばを食べていたそうですが、それがいつの間にか、大晦日に食べるものとして一般に広まったようです。

年越しそばには、「そばのように細く長く長寿で幸せであるように」との願いが込められています。

又、そばは、うどん等に比べて切れ易いことから、「1年の苦労や災いを断ち切る」という意味もあるそうです。

「年が変わるまでに食べ終わらなければ幸運を逃す。縁起が悪い」とも言われていますので、片づけは年を越さず年内に済ませましょうという戒めも込められて



いるのかもしれませんが、私もこれにあやかり、年内にやるべきことは頑張ってお済ませよう心掛けます。

大切な何かを失くしてしまった

・・・?



「TPO=Time Place Occasion」

つまり、時と場所と場合に応じること。

これは確かに以前よく使われていた言葉ですが、なぜか最近ではあまり耳にしなくなったような気がしませんか？

TPOとは、本来その場に居合わせた人と人が、お互いに気遣うことで相互が快適に過ごす為の最低限のルールだと思います。

しかし、皆さんに思い浮かべてほしいのは、電車やバスの中や公共の場所での行動です。

まるで自分だけの空間のように、大きな声で携帯電話で話をしたり、優先席の傍らで、携帯をカチカチ操作してゲームを楽しんだり、はた又お化粧を直している女性や、余程お腹が空いているのかおにぎりやパンを食べたり・・・。

こんな人達、見掛けたことありませんか？

これは、**TPO**を守った行動とは言えないような気がするのでしょうか。

ただ、こういう状況を作り出した、言い換えると可能にしたのも今の社会なのです。

というのも公共の場を自分の空間足らしめるものは携帯電話であったり、パソコンであったり、音楽端末であったりするわけで、とりもなおさず、社会や生活空間の至る所にコンピューターが存在し、知りたい情報にいつでも、どこでも接続できる環境に行き着いた姿なのです。

あるモバイルマーケティングの専門家は、今日のこの状況を「生活者にアプローチする機会が無限に増えた」と喜んでいました。つまり、退屈極まりない通勤・通学手段である電車やバス内が、企業にとっては大きな可能性を秘めた

プロモーション空間になったわけです。

でも私は、これを手放して喜ぶ気にはどうしてもなれないのです。

私は、電車内での諍いを何度か目にしたことがあります。

乗客同士が、押した・押された、肩が触れた、荷物が当たった等と些細なことで言い争っている姿はとても大人同士という感じがしませんでした。

きっと多くの人々が、電車やバスの中を自分だけの時間・空間だと感じているからこそ、それを侵されるような状況には突発的に怒りが高まるのではないのでしょうか。

技術の進歩により、「いつでも、どこでも」の社会は実現されましたが、同時に、私たちは、「大切な何かを失くしてしまった」のかもしれない。

皆さんはどう思いますか？



「編集後記」

早いもので、年の瀬を迎えました。

今年は、大雨による洪水や御嶽山噴火により尊い命が多く失われてしまうという悲しいことが起きてしまいましたが、その反面、ノーベル物理学賞受賞、「富岡製糸場」の世界文化遺産登録、全米テニスで錦織圭さんが準優勝など嬉しいニュースもたくさんありましたね。

新しく迎える年は、どんな年になるのでしょうか？

皆が健康で笑って暮らせる日々・・・それだけを願います。

この1年、「やすらぎ通信」を毎月お読みいただき有難うございました。

来年も、気分を変え楽しい話題をお届けできれば、と考えておりますので引き続きよろしく願いいたします。



皆様お揃いで良いお年をお迎えください！

編集責任者

渡辺 田鶴子